第１学年「算数」学習指導案

授業者　河合　紗由利

２月２１日（木）１階Ｃ室　１０：００～１０：４０　話し合い１０：５５～１１：４５

１　単元名　　かたちあそび

２　単元について

これまで第一学年の子どもたちと学習してくる過程で，他の学年以上に，子どもたちの持つ生活経験や環境による影響が大きく，子どもたちの発想をもとに授業を構成しようとすると，どうしても様々な学習内容に触れながら学び深めていくことが多いと感じてきた。

このような実態を踏まえて，さまざまな形を題材とし授業を構成しようと考えたとき，「図形」の内容と「測定」の内容に触れながら，単元を構成することができると考えた。そこで，本単元では，「測定」の内容を中心としながらも，「図形」の内容にも触れることとした。「測定」の内容は，測定する対象となる物体をどのように子どもたちがとらえているのかということに触れる必要がある。そのため，おのずと「図形」の要素も触れることになると考える。本単元では，身近にある色々な形をした物を用意し，それらで遊ぶことを活動の中心に据えた。遊びという活動を通して，様々な物に触れ，特徴を捉えたうえで，算数の学習へとつなげていく。

本時では，様々な物を提示し，「これより大きい物はどれですか」と発問する。第一学年の子どもたちにとって「大きい」とは，「高い（高さ）」「長い（長さ）」「重い（重さ）」「広い（面積）」「大きい（体積）」などの様々な観点が考えられる。「大きい」と問うことで，何を比較対象としているのかが曖昧になる。そこで，子どもたちとの対話を通してどの「量」を比較対象とするのかを明確にしていく。この過程で，子どもたちの「量」の捉えを豊かにしたいと考える。また，子どもたちの表現を大切にしながら，「図形」に関わる表現もより豊かなものにしていきたい。

なお，次時（本誌 p119 参照）には本時の学習をもとに，比較の方法に焦点を当てた授業を行う。

３　学習指導計画（５時間目／全７時間）

第０次　身の周りにある箱で遊ぶ。（「えらぶ」の時間に行う。）　…３時間

第１次　身の周りにある箱を積んだり，転がしたりして遊ぶ。　…１時間

第２次　身の周りにある物を，自分たちで観点を決めて比較する。　…本時１／３時間

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

・身の周りにある物を比較するための観点を明らかにすることができる。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１．手元にある物を確認する。	
２．基準とする物をもとに，「大きさ」を比較する。 Ｔ　これより大きい物はどれですか。 Ｃ　これは絶対に小さい。 Ｃ　こう見ると，こっちが大きいけど，こっちから見ると…	・子どもたちの素朴な発言や何気ない動作を看取り，適宜取り上げていく。 ・判断するときに迷った物を中心に取り上げ，どのように判断したのかを発表させる。
３．どのような観点があったのかを振りかえる。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

・話し合いを通して，比較の観点を明確にすることができたか。

・子どもたちは，何を量として捉えていたのか。